

おたふくかぜ

Q1.どんな病気？

おたふくかぜという病気は「流行性耳下腺炎」「ムンプス」ともよばれ、ムンプスウイルスがのどや鼻から入っておこります。生後7~8ヶ月頃よりかかりますが、幼稚園児や小学生がかかりやすく潜伏期間は2~3週間です。耳の下からあごにかけて耳下腺が腫れ、おさえると痛がります。片方の耳下腺が腫れ、1~2日たってもう片方が腫れることが多いです。発熱は約半数に数日間みられ、約1週間で腫れはひけます。感染しても発病しないことが30~40%もあります。

高熱が続いたり、頭痛、吐き気、嘔吐が続くときは、髄膜炎の合併が考えられますので、すぐに診察を受けましょう。思春期を過ぎてからおたふくかぜにかかると、男性では睾丸炎、女性では卵巣炎などを併発することもあります。

診察時に特に検査は行いませんが、反復性耳下腺炎と間違えることがありますので、血液検査でおたふくかぜ抗体価を確かめておくことが必要な時もあります。おたふくかぜは一度かかると二度とかかりません。

Q2.治療、手当ては？

腫れている間はいかんだり、唾液が出るときに痛がりますので、刺激のあるものはさけて少し軟らかいものを用意してください。酸っぱいものや果汁は耳下腺炎の痛みを強くするので避け、水分は十分とってください。

熱が下がって2~3日たって、食欲もあり元気があれば、お風呂に入れます。汗をかいたときはおしぼりや乾いたタオルで拭いてください。口の中は時々ブクブクとうがいをしてください。

他人にうつりますので腫れている間(約1週間)は、他の子と遊んだり、登園、登校、外出などはさけてください。登園、登校は医師の許可が必要です。学校保健法では耳下腺の腫れがとれてからとなっています。

Q3.予防について

患児と接触して48時間以内くらいであれば予防接種が間に合う場合もありますが、まずは医師にご相談ください。

予防接種は1歳過ぎから接種できます。成人してからかかると大変重くなることが多いので、早めの予防接種をおすすめします。